



いきいきとした町づくりをめざして

議会だより かつうら

No.17

2001. 11. 15発行

発行 徳島県勝浦町議会
編集 議会広報調査特別委員会

〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町久国
TEL (08854) 2 - 2511

ワァーイ ぼくも入れてよ
(第40回町民体育大会)

災害復旧などの補正予算を可決 — 2

委員会の活動は ————— 4

12議員が一般質問 ————— 6

どなんなっとんで 県道の改良は? — 17

北の大地から ————— 18

一般会計

補正予算 1億5,674万円を可決

その主なもの

災害復旧費	1億1,640万円
総務費 (合併シンポジウムなど)	357万円
民生費 (子育て支援事業など)	395万円
衛生費 (最終処分場地元対策負担金など)	1,184万円
農林水産業費 (都市交流事業補助金など)	1,421万円
土木費 (町営住宅修繕)	221万円
教育費 (給食炊飯関係、自転車置場修繕など)	432万円



花団地道路の災害復旧に5,000万円

国民健康保険特別会計

老人保健拠出金など 3,610万円

病院事業特別会計

X線テレビ取り替え 525万円

台風十一号の災害復旧に

一億一千六百万円

九月定例会は、九月十九日から三十日までの十二日間開かれ、各会計の補正予算などを審議し、全員一致で可決しました。また、平成十二年度各会計の決算認定については、総務常任委員会に付託しました。一般質問では十二議員が町の姿勢をただしました。



工事中の「ふれあいの里 さ・か・も・と」

議案に対する主な質疑

問 松茂最終処分場の地元対策負担金として、七百七十六万円の補正が計上されているが、総額ではいくら必要か。

答 負担金の総額は四十八億円、これを二市十四町村で負担する。勝浦町の負担金は四千六百五十六万円である。

問 合併浄化槽推進費に二百七十六万円余りの補正があるが、現在、町内で何基設置できているのか。

答 今回の補正分を含めると二百三基である。

問 都市交流事業補助金五百二十九万円の内容は。

答 坂本グリーンツーリズム事業の中で料理講習、接待指導、講演会などの講師謝礼、宿泊模擬訓練や宣伝用パンフレット作成などである。

問 子育て支援事業で障害児保育の臨時雇い賃金が計上されているが、国・県の補助金は。

答 国・県の補助金が三分の二ある。

第5回 臨時会

町長 3ヵ月間3%の減俸

問 十一月一日に開催。畜産団地への移転問題で一名の入植者の説得が不調に終わったため、謝罪するとともに減俸する条例の改正を行いました。

答 移転問題はこれで終わったのか。入植は難しい状況だが、引き続き説得につとめるとともに、行政が先頭に立って公害問題に対処したい。

条例改正を全員一致で可決しました。また、十一月十日で任期が満了する教育委員に、松浦一博現教育長の任命に同意しました。

人権擁護委員に

中西 正氏（石原）
堀 毅男氏（中山）

固定資産評価審査委員会委員

杉本吉男氏（生名）の
選任に同意

議員提出議案

WTO農業交渉で新しい貿易ルールを 求める意見書

農林水産業のもつ多面的機能を重視した国際的なルールの確立、各国の生産資源を最大限活用した食料安全保障システムの確立、食料の厳格な安全基準の策定と表示ルールの確立などの内容

提出先 総理大臣、衆・参議長、農林水産大臣、外務大臣、
県選出国會議員

産業建設

与川内

花団地道路の災害復旧に5千万円



台風11号によるき裂（与川内花団地）

七月十九日と九月三日に委員会を開き、台風十一号の災害復旧費と、グリーンツーリズム関係のソフト事業の補正予算、町道認定などを審議し、勝浦縫製の閉鎖問題について報告を受けました。

台風十一号の

被害状況は

理事者から 台風十一号による被害は、土木施設が十六カ所、農業施設六カ所で、与川内花団地の道路復旧に五千万円が必要な見込みであると説明がありました。

問 花団地道路復旧の工法は。

答 ボーリングをしてアンカーで止める工法を計画している。

問 国の補助率は。

答 国が八十五%で町負担が十五%である。全議案について全会一致で承認しました。

勝浦縫製のその後は

理事者から 七月六日の労使交渉の結果は「会社の閉鎖は認められない」との組合側と「存続はできない」との会社側が平行線のまま進展していませんと報告がありました。

厚生

し尿処理業者 新規参入の要望が

七月二十四日、九月四日、十月十三日に委員会を開き、生活排水処理基本計画の策定と補正予算、肉骨粉の焼却問題などを審議しました。

生活排水処理

基本計画策定について

理事者から し尿処理業者新規参入の要望があるが、その基本となる「生活排水処理基本計画」が十二年度で期限切れとなっていたので、早急にコンサルタントに委託し策定したいと説明がありました。

問 計画策定の委託料は。

答 百五十万円程度である。

問 町職員でできるのでは。

答 よく検討してみたい。

その後、難しい部分があり職員ではできないので委託したいとの回答があり、委員会も了承しました。

勝浦病院X線テレビを取り替え

理事者から X線テレビが耐用年数を過ぎ、画面が不鮮明になっているので取り替えたいと説明がありました。

問 予算はいくらか。また、財源は。

答 五百二十五万円。留保資金で対応したい。



耐用年数を過ぎたX線テレビ

県から肉骨粉の焼却依頼が

理事者から 狂牛病関係で「肉骨粉の焼却をクリーンセンターで受け入れてくれないか」と県から依頼があり、返事を急ぐと説明がありました。

委員会としては 地元対策などできないという現時点での受け入れはできないとの結論になりました。

の活動報告

総務

来年度から

給食センターで炊飯

九月六日に委員会を開き、給食センターでの炊飯に伴う備品購入費と、中学校の自転車置場修繕工事費などの一般会計補正予算を審議しました。

給食センターの備品購入

理事者から 来年四月から炊飯の業者委託をやめ、給食センターで行うことにし、設備費として二百三十三万円が必要で、一部は国の半額補助もあると説明がありました。

問 外部委託で経費の節減を図る時代なのに、それに逆行するのではないか。

答 臨時の職員で対応したい。

問 食材は町内産のものを使用し
てはどうか。

答 できるだけ町内で生産されたものを使いたい。

中学校自転車置場の修繕

理事者から 中学校の自転車置場の屋根のふき替え、塗装、亀裂修繕費として百七十一万円を補正で計上したいと説明がありました。
全議案とも全会一致で承認しました。

炊飯を始める給食センター

常任委員会

職員視察報告

3万人市の第1号 行政主導で合併

茨城県潮来市

総務常任委員会は十月九日から三日間、茨城県潮来市、宮城県仙台市で市町村合併と総合学習について視察研修を行いました。

潮来市は、二万五千六百人の潮来町と六千百人の牛掘町が合併した「三万人市」の第一号です。

合併がスムーズに進んだ理由は、潮来と牛掘が江戸時代から深いつながりがあったことと、牛掘町長が自ら引退を決意して合併に全力を傾注してくれたことが大きいとの現市長の言葉です。両

町の住民にアンケート調査を行い、六十二％の賛成を得て、行政主導で四年がかりで合併実現にこぎつけたとのことです。市に昇格して「水郷・潮来」の知名度が一層高まり、県外からの観光客が増えるのではないかと期待しています。

勝浦町が、合併を進めるにしても住民の意見をよく聞くことはもちろん重要ですが、行政が主体性を持って進めることも大事ではないかと感じました。

休日は学校開放

仙台市では、来年四月から実施される学校教育総合学習について研修しました。

休みの日には、学校施設を開放するなどして、家庭や地域との連携を深めるとともに、楽しい学校の実現をめざして、一人ひとりを大切にした学習を進めていきたいとの説明がありました。



合併の経過について説明を受ける

三選出馬の意志は

立候補したい（町長）

神原 忍 議員



いただいたが、今後、町民の理解が得られるなら、三選を目指したい。

再生を目指したい。

問 グリーンツーリズム事業により、

町と地域の活性化が図れるのか。

答 町長 この事業は、

坂本地区だけでなく町全体の活性化につなげたい。都市との交流により、とれたての食材を提



駐車場の整備を急げ

商工業対策は

長引く不況により、地元商店街も大きな影響を受けているが、

今後、どのような支援を考えているのか。

答 町長 今年初めて

プレミアム付商品券を売り出したが、五日間で完売した。商工業関係者と協議を重ねながら、町としても支援をしていきたい。

間の交流を進め、方策を考えていきたい。

市町村合併への

考え方は

問 市町村合併について町長は「避けて

通ることのできない問題である」と答弁してきたが、庁舎内において推進チームを発足し、出張講座を開設している。町長として考え方の変化はあるのか。

答 町長 思っていた以上に早い時期に、

決断を迫られると認識している。

問 川口町政もあと四月になったが、三選出馬の意志はあるのか。

答 町長 七年八九月、町政を担当させて

者が大きな打撃を受けている。今後、どのような振興策を打ち出すのか。

答 町長 生産基盤の整備として、町単

単の土地改良事業を活用しながら、農業者の意識改革による勝浦農業の

問 よってネ市が週三回開かれていますが、今後、施設整備の計画はあるのか。

答 町長 今年は、九千万円以上の売り上げが期待されている。大型バスが止まれるような駐車場などの整備を図っていかなければならないと考えている。

問 誘致企業の多くが撤退し、現在は四社のみである。今後に向けての対応は。

答 戸川産業振興課長 誘致企業連絡協議会の中で、厳しい時代を乗り切るために、異業種

する考えは

基本計画に基づいて判断する（町長）



福徳重二 議員

沼江バイパスは

やめたのか

問 「沼江バイパスの計画は、もうやめたのでないか」との声がある。用地交渉が全く進まないのはどういうことか。町の努力が足りないのではないか。

答 坂井建設課長 用地関係者十七人の中で、重要なポイントの交渉が難航して進まない。地域から、「難航している地権者へ交渉の手伝いをしてみようか」との声もあるが、依頼した事実は全くない。今後どうするのか。

住宅マスタープラン 宅地造成の 実現を

問 西岡、生名、沼江の三カ所の調査研究が終了した。宅地造成を進める考えはあるのか。

答 西岡、生名、沼江の三カ所の調査研究が終了した。宅地造成を進める考えはあるのか。

PFI導入の 考えは

問 他の市町村でも研究が進められているPFIの導入の考えはないか。

答 町長 事業費が十億円以上でない



原田昭三議員

介護保険料の減免制度を

徴収状況を見て考えたい（町長）

問 昨年四月から始まった介護保険事業の状況は。

答 光井福祉課長 一
号被保険者は、特別徴収者一千六百八十五人、普通徴収者三百二十二人である。要介護要支援認定者は、年間平均三百二十人であり、介護サービスの利用状況は、居宅介護が計画に対して百

四十四％、施設利用が八十九％である。

問 保険料の滞納者は。

答 光井福祉課長 一
号被保険者では一世帯の二人である。

答 島務課長 二号被保険者の未納は、四十八世帯の五十八人である。

問 全国的に、減免制度ができていないのが、保険料で三百二十八、利用料で六百七十四市町村ある。本町ではどんな考えか。

答 町長 十月から一
号被保険者の保険

し尿汲み取り業者を複数に

問 「町内のし尿汲み取りを、一業者でなく複数にしてサービスの向上を」との声がたくさんある。許可申請があれば複数にするのか。

答 町長 判断のもとになる生活排水処理基本計画が、十二年度で期限が切れており、十三年度の計画を作成中である。その計画書を基本にして、増やすかこのままでいくのか検討したい。



拡幅が待たれる沿江県道

答 坂井建設課長 地域の人のお願いして進める方法を取りたい。パイパスを中止するといふのでなく、現道の狭い所を拡幅しながらパイパスの用地交渉を進めたい。

問 町長 今の財政から見て厳しいものがあるが、住民の意向調査をする中で、なお慎重に考えたい。

答 町長 仮に、団地造成を計画するとなれば、積立基金の七千万円があてられると思う。

民間の参加は難しい。将来は研究してみたい。

※PFIとは
公共施設工事に民間資金を活用して、設計から建設、維持管理までを民間に任せ、自治体は利用料を支払う。

実習園の

跡地利用を

料が満額徴収になるので、その状況を見てから考えたい。

問 勝浦高校の実習園跡地を有効活用するため、小さく区切った都市と農村の交流の菜園として、町内外の人に貸してはどうか。

答 町長 良い提案だが、現在、借りた
いとの打診があるので、その状況を見てから検討したい。

勝浦病院の

改装は

問 病室の改装はいつまでに完了するのか。

答 石尾病院事務局長
来年三月に完了する。

問 建物の外壁が黒く汚れているが、改装の計画は。

答 町長 外
壁の塗り替えは、一年で完了させること



外壁の塗り替えはいつ

は予算的に難しいと思う。財政状況を見て、できれば来年度の予算に計上するように前向きに検討してみたい。

市町村合併の対応は

近隣市町村と 早急に話し合いの場を（理事）

押栗義雄 議員



の対応、少子高齢化対策、財政悪化への対応などを考えると合併はやらなければならぬ。隣接する

市町村が絶対の条件だが、英知を絞って町に合った相手を考えることが大切である。

答 数藤理事 住民に十分な情報を提供

すること、近隣市町村と早急に話し合いの場を持つ必要がある。

答 秋本参事兼総務課長 町民に今まで通りのサービスを提供す

るためには財政基盤の強化が必要で、合併はしなければならぬと思う。推進チームとともに課を挙げて取り組みたい。

行財政改革の 具体策は

大綱を厳しく見直す
必要も（町長）

問 国の財政が深刻な事態となり、聖域なき構造改革に取り組んでいる。市町村にも大きな影響があり、行財政の改革は避けられない局面だと思われるが、見解と具体策は。

答 町長 縦割り行政ではなく横の連携を望んでいるが、うまく機能していないので、今後、広い視野で改革していく。新行財政改革大綱を断行しているが、今の大綱をもっと厳しく見直す必要に迫られるのではないかと考えている。

答 秋本参事兼総務課長 今年度の具体的取り組みとして、町債発行の抑制、三役および管理職の期末手当の一部

削減も早く達成し、行政のスリム化を図っていきたい。



農業の町として前向きに

答 町長 「農業の町」「福祉の町」を重点に取り組み、かなりの成果を上げてきた。

カット、手数料、使用料の見直し、物件費の節約、時間外経費の節減などを行っており、職員の5%削減も早く達成し、行政のスリム化を図っていき

町長の目指す 町づくりは

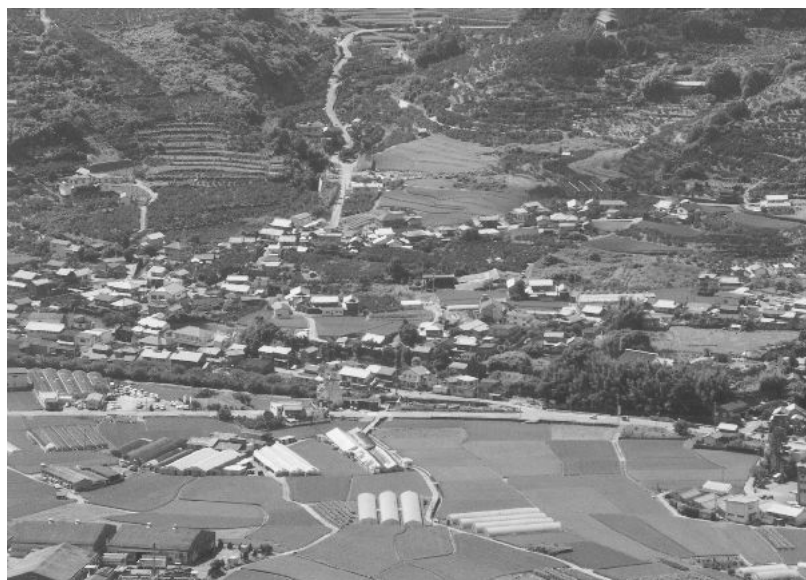
問 地方分権、行財政改革、市町村合併や町の活性化策など重要課題が目白押しだが、三選に向かってどんな町づくりを目指すのか。

また、子供を育てやすい環境整備の施策を検討し活性化につなげたい。産業面では農業の町として、前向きな計画を立てて頑張りたい。

問 合併特例法の期限が十七年三月に迫っている。早い時期に合併協議会設置の必要があると思うが、その認識と対応策は。

答 町長 地方交付税が今後、5%の削減、特例法後は10%削減するとの非公式情報もある。財政的にも、国の流れから見ても、合併は避けて通れない重要な課題であり、町民の理解を求めていきたい。

答 助役 広域行政の推進、地方分権へ



合併は十分な情報提供を

公務員制度改革

能力・実績に応じた起用を

将来は必要（町長）

川端雅夫 議員



資料提供をしていきたい。

勉学に優れた人だけでなく、ボランティア活動、運動能力やIT関係に詳しい人を採用してはどうか。

問 町長 基本はバランスのとれた職員

を採用したい。将来に向けては、特殊な技術や能力に優れた人などの採用を前向きに考えていきたい。

学区再編への

反応は

選択幅が狭くなる
との声も（教育長）

問 勝浦郡内は、学区再編に伴い勝浦高校と小松島高校の二校と



勝浦中学校からの入学者は増えるのか（勝浦高校）

なるが、昨年の勝浦高校への入学者は勝浦から十七人、上勝から五人である。生徒や保護者から再編についてどのような意見、要望があるのか。

答 教育長 県教委は学校間格差をなくし、地元高校育成のための是正というが、保護者などからは子供たちの選択幅を狭めるという意見があり、現在、通学区の見直しが行われている。

問 新学習指導要項で総合学習の時間が導入されるが、その具体

の内容は。

答 山平教育委員会事務局長 ふるさと教室を設置し、実習体験、福祉のボランティア活動や自然体験などを含めた学習が取り入れられる計画である。

答 山平教育委員会事務局長 教師が特

別指導するハンドブックの作成とか、教材の再検討を進めていく予定である。

介護保険

介護体制は

万全か

問 全国の老人施設で、入所者が介護人のちよつとしたすきに転落事故を起こし、半身まひになるなどの事故が千四百四十八件あったと聞くが、介護体制は万全か。

答 光井福祉課長 今は、老人三人に対し介護人一人の割合であるが、今後、車いすやベツドを低くするなど福祉用具を改善し、事故防止に努めたい。

問 訪問介護で、庭木の手入れや草むしりなどを頼まれることはないか。

答 光井福祉課長 当初はそのようなこともあったが、今は大きく逸脱するようなことはない。

答 助役 国の動向を注視しながら取り組んでいきたい。町長が適確な判断ができるよう

問 この改革案に基づいて、どのような人事評価システムの整備を図り、町長に助言していくのか。

答 町長 将来は必要と思うが、当面は年功序列を基本としたい。

問 公務員制度改革案が示されたが、能力・実績に応じ起用する考えはあるか。

答 町長 将来は必要と思うが、当面は年功序列を基本としたい。



能力に応じた起用を

グリーンツーリズム事業

町あげて取り組むべきでは

職員一丸となって頑張る（町長）

森 敏治 議員



答 教育長 平成十四年度から実施される総合学習の時間とか、完全週五日制によるゆとりの中で、自然体験や農業体験にこの施設を利用してもらえるよう関係方面に働きかけたい。また、

総合学習のためにどういう施設にするのがよいか小、中学校の先生の意見を聞き、産業振興課と共

話を進めたい。

問 改装工事は二月十日の工期までに完了するのか。また、三月一日のオープンが可能か。

答 戸川産業振興課長 特別なことがない限り工期内の完成は可能だと思ふ。三月一日オープンを目指して、地元も担当職員も意欲的に日夜努力している。

改装工事は二月十日の工期までに完了するのか。また、三月一日のオープンが可能か。

問 散策道など周辺整備も緊急な課題だと思ふが、補助事業などで対応する考えは。

答 戸川産業振興課長 町のあるがままの自然を中心に、都会の人に安らぎの場を提供することを基本に考えている。周辺整備は、地元で対応できるものは地元の人にお願ひし、どうしても必要なものがあれば考えたい。

戸川産業振興課長 町のあるがままの自然を中心に、都会の人に安らぎの場を提供することを基本に考えている。周辺整備は、地元で対応できるものは地元の人にお願ひし、どうしても必要なものがあれば考えたい。

市町村合併

町の将来を

見据え決断を

問 合併は、町の将来をしっかりと見据え、町長自らが結論を出して住民に積極的に訴えていくことが大切だと思うが、

町長 情報を提供し、住民の意見を十分聞きたい。相手市町村の考え方を把握する中で、リーダーシップをとって決断したい。

住宅マスタープラン

宅地造成は

見直すべきでは

問 町の人口減は歯止めがきかない状況である。生名地区の宅地造成は規模を縮小しても

町長 財政状況から見ても早急に見直しをすべきでないか。

答 町長 財政的には、国の補助制度や起債もある。町民の意向を再度調べて、進めるか見直すか決めたいたいのでもう少し時間が欲しい。

消防防災訓練の

成果は

問 九月二日に星谷運動公園で行われた防災訓練の成果は。

答 秋本参事兼総務課長 自主防災組織の参加により、少子高齢化時代の消防活動のあり方を示してもらった。また、訓練に参加した消防団員はよい経験をされたので、実践の中で生かしてもらおうと共に、後輩に伝えていくことも大切だと思ふ。

問 この事業は坂本だけではなく、町全体の事業である。各課が十分協力し合つて、成功に向け取り組むべきと思うが。

答 町長 各課が連携し、町の活性化のため職員一丸となつて取り組むことは当然で、成功するよう頑張りたい。

問 この事業に教育委員会への協力は欠かせないと思ふ。先生の希望や意見を聞くことが重要でないか。



改築が進む旧坂本小学校



自主防災組織も参加

行財政改革

人員・諸手当の削減を

削減の方向で進めたい（町長）

中田丑五郎 議員



くしなければと思っ
て。宿日直は火災の時
の対応が難しく、組合交渉
により二人体制となっ
ている。

答 町長 厳しい財政
状況の中で、職員
の意識改革を図り、経費
の削減、残業時間も少な
くし、人員を削減するこ
う方向で進めていき
たい。

職員定数五％減員
の再見直しと、時
間外勤務や宿日直等の諸
手当の削減は、適正な人
員配置や職員の意識改革
管理職や理事者の指導に
よって可能ではないか。

問 職員定数五％減員
の再見直しと、時
間外勤務や宿日直等の諸
手当の削減は、適正な人
員配置や職員の意識改革
管理職や理事者の指導に
よって可能ではないか。

答 助役 今後、国や
県の委任事務の見
通しがついた時点で検討
し、その時期がくれば削
減していく必要があると
認識している。

答 秋本参事兼総務課
長 事務事業を平
準化し時間外勤務を少な

森林の整備と 保全を

保全を

問 森林の持つ公益的
機能を十分發揮す
るため、森林の整備と保
全に対する考えは。

答 戸川産業振興課長
森林の公益的機能
が重視されており、森林
が環境に与える影響は、
今後、都会の人からも理
解され、森林整備に対す
る雇用促進にも大きなイ
ンパクトがあると考えて
いる。

問 国の補正予算で十
万人の雇用の創設
が打ち出され、その中で
「山林整備のため数万人

の雇用を目指す」との報
道がある。また、森林の
持つ公益的価値は年間七
十五兆円。勝浦町に換算
すれば百四十億円になり
これだけ価値ある森林を
守るための町の対応は。

答 戸川産業振興課長
森林組合の組織を
強化すると共に、新たに
組合以外の事業主が参入
できる雇用の創設等いろ
いろな事業を通して対応
を考えていきたい。

問 十四年度から実施
される完全学校週
五日制により、総合学習
の時間が創設される。各
学校が創意工夫を生かし
た特色ある教育活動を決
めることができるが、そ
れによって学校間格差が
生じるのではないか。

答 教育長 各学校が
地域の実態にに応じ
て、児童や生徒の興味、
関心に基づく学習など創
意工夫を生かした教育活
動を行うことになってい
る。各学校の取り組みに
ついては、小・中学校長



森林の価値を再認識

総合学習の 取り組みは

取り組みは

会等で協議しながら推進
していきたい。

問 週五日制による児
童、生徒の健全育
成への対応は。

答 教育長 子供セン
ター、子供地域活
動等を通じ、PTAと連
携を持ちながら取り組ん
でいきたい。

問 環境の良い居住条
件を生かすため、
二車線化によって安全で
安心して通行できる県道
の改良を早急に。

答 町長 住民本位
の行政を心がけ、現
場に向き、地域の集
や各団体との会合に積極
的に出席し、対話の行政
を進めていきたい。

問 住民との対話を行
い、理解と協力を
得ながら活力ある町づく
りを。

答 町長 住民本位
の行政を心がけ、現
場に向き、地域の集
や各団体との会合に積極
的に出席し、対話の行政
を進めていきたい。

問 環境の良い居住条
件を生かすため、
二車線化によって安全で
安心して通行できる県道
の改良を早急に。



個性をはぐくむ教育を

問 環境の良い居住条
件を生かすため、
二車線化によって安全で
安心して通行できる県道
の改良を早急に。

答 町長 住民本位
の行政を心がけ、現
場に向き、地域の集
や各団体との会合に積極
的に出席し、対話の行政
を進めていきたい。

問 環境の良い居住条
件を生かすため、
二車線化によって安全で
安心して通行できる県道
の改良を早急に。

答 町長 住民本位
の行政を心がけ、現
場に向き、地域の集
や各団体との会合に積極
的に出席し、対話の行政
を進めていきたい。

問 環境の良い居住条
件を生かすため、
二車線化によって安全で
安心して通行できる県道
の改良を早急に。

答 町長 住民本位
の行政を心がけ、現
場に向き、地域の集
や各団体との会合に積極
的に出席し、対話の行政
を進めていきたい。

問 環境の良い居住条
件を生かすため、
二車線化によって安全で
安心して通行できる県道
の改良を早急に。

答 町長 住民本位
の行政を心がけ、現
場に向き、地域の集
や各団体との会合に積極
的に出席し、対話の行政
を進めていきたい。

問 環境の良い居住条
件を生かすため、
二車線化によって安全で
安心して通行できる県道
の改良を早急に。

答 町長 住民本位
の行政を心がけ、現
場に向き、地域の集
や各団体との会合に積極
的に出席し、対話の行政
を進めていきたい。

国際文化村構想

実現は可能か

グリーンツーリズムに活用を（理事）

西浜勝己議員



問 十四年度の県当初予算獲得に向け、八月下旬から九月上旬にはアンテナを高く掲げ、素早く対応するとの本会議答弁だった。その後、どんな行動を起こし情報をキャッチしているのかまた、頭出しを早くすると言っていたが、それは何の事業か。

答 数藤理事 知事選挙があり、県の作業が遅れている。県に向いて、勝浦町で取り組める事業があればとの働きかけをしている。

町内誘致企業の現状は

現状は

キンキサインは従業員を募集（戸川産業振興課長）

問 長期構造不況下での町内誘致企業の現状は。

今、勝浦、上勝、佐那河内、神山の四町村を一つのエリアとして国際文化村構想が計画されているが、具体化されていない。

問 県の作業が遅れているとのことだが、来年度の予算編成にとりかかるのはいつか。また、国際文化村構想は実現可能と判断してよいのか。

答 数藤理事 十二月ぐらいになると思う。国際文化村構想はグリーンツーリズム事業と相通じているものがあり、活用をしたい。

答

戸川産業振興課長 町内誘致企業は四社に減ってしまった。誘致企業連絡協議会での話では、ナカテツは三十一年ぶりの大不況であるが、キンキサインは「ピンライイン」の増設で、女性中心に二十人から三十人程度の募集を予定し、新たな生産拡大に努めたいとのことだ。



成功するのグリーンツーリズム事業

市町村合併

必要なのは

住民の意見だ

住民対話による説明会で（町長）

問 市町村合併問題について、町長は十七年三月の法期限内に合併を進めたいとのことだが、合併は結婚と同じで相手がいる。具体的作業はどのように進めるのか

答 助役 十四年八月から十一月の間に法定協議会の設置を行い、関係市町村でスタッフを



町内唯一の朗報 新規採用を予定

作り、よく協議をしなければならぬ。

問 合併問題で最も必要なのは住民の意見だ。住民への対応は。

答 町長 情報開示や、各地区を回り住民対話による説明会で合併問題に関心を持てるよう周知したい。

どうなったし尿処理問題

問 し尿処理問題は、本計画を作成とのことだが、あまりにも時間が

かりすぎている。問題はないのか。

答 尾原住民課長 生活排水処理基本計画の策定作業が遅れており、早急に計画を策定したい。

答 町長 九月議会終了後、できるだけ早く作成したい。

町づくりの決意は

町民との心の通った町政を（町長）

問 今議会でも町長の三選出馬表明があった。二十一世紀は多事多難、長期構造不況下での町づくりの決意は。

答 町長 新しい息吹きを感じる事業には積極的に取り組むたい。また、開かれた行政を目指し、一生懸命勉強して町民と心の通った町づくりをしたい。

知事選挙

開票結果をどう受け止めるか

公共事業への 批判があることは事実だ（町長）

中西晴美 議員



問 徳島市を除く四十九市町村の首長の支持と、県下全域に張りめぐらせた強力な後援会組織に支えられ、高速道路やマリニピアの整備、松茂の空港拡張など、社会資本の充実を掲げた園藤候補と、勝手連の支持で公共事業の凍結などを訴え、徳島市を中心に運動した大田候補の選挙戦を対比すると、三万票余りの差では勝ったとはいえない。

答 町長 そのような考え方もあるが、県会議員や市町村長を中心に権力で抑えていく選挙方法や、土産業者との結びつきなどに住民のかかれた反発があったのではないか。

現職は全県下公平にバランスのとれた行政をすることが責務であり、時代を先取りしていく必要がある。一つのビジョンを掲げた挑戦者に対して、受け身の辛い立場もあつたと思う。

問 開票の結果、勝浦町では二対一であり、公共事業を必要とする過疎町村として住民の判断は正しかったと思うが、全県的な結果から見ると特別な扱いは望めないのではないか。選挙の結果が町にプラスするとは余りなく、むしろ従

来を下回るのでないかと危惧するがどうか。

答 町長 公共事業に対する批判が出たことは事実であり、知事もどう方向転換するか分からないが、町としては有利な財源を活用しながら、財政の許す範囲で基盤整備や社会資本の整備も行う必要がある。それに対する県の支援は、今までのような特別交付税などは国から県に入る金も少なくなるので、厳しい対応になると思う。しかし、住民からは税金を頂いているので、それに対する還元サービスを要望していくことは、首長としての責務であると考えている。

今後の病院のあり方は

問 多くの公立病院が赤字経営の中で、勝浦病院は一般会計からの繰り入れはあるものの収支トントンの状況である。しかし、今後ますます難しい財政運営を迫られることは明らかである。これに対応するため、M

答 町長 院長や事務局長と相談しているが、国の半額補助などで対応できれば別だが、全額一般財源を投入しなくてはならない現状での導入は難しい。

問 石尾病院事務局長が紹介してMRIの診断を受けた人は、月平均三人である。また、精度の高い器材なので別に設置スペースを作らなければな



MRI（磁気共鳴断層撮影）を導入しては

答 町長 福祉の拠点である病院は、どんなことがあっても存続させたい。合併するとなれば、準備段階の法定協議会で存続に向け、町の立場を十分にアピールしていきたい。

問 市町村合併を進める中で、勝浦病院を維持するためどのような決意で臨むのか。

答 町長 福社の拠点である病院は、どんなことがあっても存続させたい。合併するとなれば、準備段階の法定協議会で存続に向け、町の立場を十分にアピールしていきたい。

知事選の争点になった公共事業（マリニピア沖の洲）

実現しない町長答弁

介護保険料等の減免は

町独自の制度を検討する（町長）

井出幸夫 議員



町長 町独自の制度を検討する（町長）

問

老夫婦の世帯が保険料未納になっていて、介護サービスを受けていない恐れも出てきている。制度と人と、どちらが大事なのか。

答

町長 両方大事だ。国は「収入による一律減免をしない」「全額免除をしない」「一般財源を支出しない」という三原則を守ろうと指導しているが、多くの自

問

低所得者に対する減免制度について三年も議論しているが、まったく前進がない。町長は、「保険料を払えない人を、見捨てるようなことは絶対しない」と繰り返し答弁してきた。ところが、今議会で「状況を見ながら検討する」というあいまいな答弁に後退している。なぜ、制度を作らないのか。

問

町長 国の三原則を基本にした町独自の制度を検討したい。

答

町長 国の三原則を基本にした町独自の制度を検討したい。

問

町長 国の三原則を基本にした町独自の制度を検討したい。

答

町長 国の三原則を基本にした町独自の制度を検討したい。

難病患者の援助は

十二月に結論（町長）

問

町長 国の三原則を基本にした町独自の制度を検討したい。

答

町長 国の三原則を基本にした町独自の制度を検討したい。

問

町長 国の三原則を基本にした町独自の制度を検討したい。

答

町長 国の三原則を基本にした町独自の制度を検討したい。

問

町長 国の三原則を基本にした町独自の制度を検討したい。



新規就農者に支援を

新規就農者の支援制度は

「新規就農者のために月十万円を一年間支給しては」という提案に対し、町長は「ユニークな発想だ。前向きに検討したい」と答弁している。

問

町長 就農相談の窓口を置き、県の制度と併せて検討し、新年度に向けてはつきりさせたい。

答

町長 就農相談の窓口を置き、県の制度と併せて検討し、新年度に向けてはつきりさせたい。

問

町長 就農相談の窓口を置き、県の制度と併せて検討し、新年度に向けてはつきりさせたい。

生名地区の悪臭問題 町長の責任は

けじめをつけたい（町長）

問

町長 生名地区の悪臭問題について、町長

答

町長 生名地区の悪臭問題について、町長



解決していない悪臭問題

障害者用のパソコン普及 ニーズ調査を

国「障害者情報バリアフリー化支援事業」が実施されることになり、パソコン用の文字読み上げソフト等が補助の対象となる。直ちに、ニーズ調査をすべきだ。

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

問

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

答

町長 一刻も早くニーズ調査をやり

勝浦高校存続はできるのか

特色ある高校に
変えていかなければ（町長）

国清 栄 議員



問 一学年八十人定員を割るようでは「学校の統廃合も」との県教委の基本方針が示されたが、勝浦高校は存続できるのか。

答 教育長 学校全体で二百四十人が存続の最低ラインである。これからの少子化に対応して、県も学校再編に向けて検討している。今後勝浦高校がどうなるか分からない。

答 町長 将来は存続が危ぶまれる時が来るのではないかと思つて

いる。

問 存続が難しい最も大きな要因は少子化につぎると思うが、平成十二年度の勝浦郡の中学卒業生の二十二％しか勝浦高校へ入学していない。その比率からすると八年後には十五人を切る。特色のある地域に根ざした学校づくりを進めても生徒数が減少すれば存続

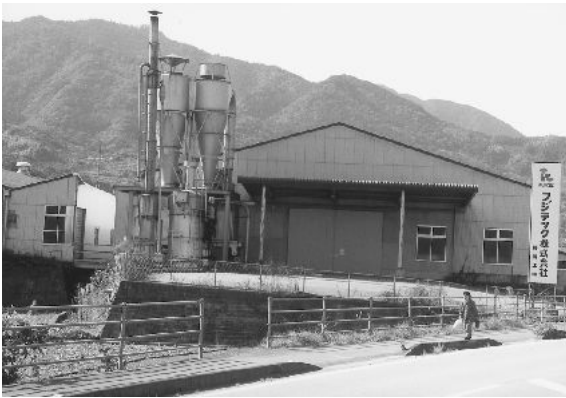
は難しいのでは。町長 勝浦高校の存続については、県との絡みの中で大変難しい問題もあるが、県に働きかけると共に、住民と一緒に研究してみたい。

答 閉鎖企業に勤めていた人の動向調査はしたか。また、地権者との間のトラブル等は起きていないか。

誘致企業の閉鎖問題について

問 戸川産業振興課長

従業員の動向調査



このままでよいのか閉鎖工場

はできていない。撤退や閉鎖した会社とのトラブルはないと考えている。借地については、土地代等は現在も支払われていると聞いている。また、会社が所有している土地については、売りたいといった所もあるが、売るつもりはないとの会社もある。

**市町村合併
合併推進チーム
のスケジューリングは**

問 法定協議会を十四年八月から十一月

までに設置する必要があるとのことだが、庁舎内で組織する合併検討委員会と理事による推進チームの役割分担は。

答 助役 十人のスタッフで組織する検討委員会は、広域行政も含め合併の意義や必要性を調査研究し、今後、合併作業が進むにつれて資料収集等を行っていく。また、推進チームと力を合わせながら合併に向けて努力していきたい。

答 数藤理事 推進チームは二人で、内容は、なぜ合併が叫ばれているのか、また、その必要性と効果等について客観的な立場で説明している。反応については「この時世だから合併もしょうがないなあ」と言う考えの人もかなりいた。合併推進に向けての具体的な行動は、数藤理事 すでに合併をしている所の市長、町長などを招いての講演会や住民の代表によるシンポジウム、パネルディスカッション等考えていきたい。



みんなで考えようこれからの勝浦

答 助役 隣接市町村の助役以下のレベルでの勉強会等呼びかけていきたい。

営農アドバイザーの指導状況は

問 営農アドバイザーを設置して六カ月になるが、どのような活動をしているのか。

答 戸川産業振興課長 地元に入ってお互いの信頼関係を積み上げ、技術的な問題やそれぞれの分野のマーケティングを含め、総合的に指導を行っている。

答 町長 将来は存続が危ぶまれる時が来るのではないかと思つて

勝浦川の水質浄化対策を

流域懇談会で県に要望する

(建設課長)

溝田義昭 議員



れる予定なので、この会を通じ環境面の配慮を県に要望したい。

せせらぎ公園の 施設整備を

問

横瀬前川地区のせせらぎ公園は、年々利用者が増加している

今後、グリーンツーリズム事業の関連施設としての利活用もあると思う。以前に要望してあった案内板の設置はどうか。また、便所の水洗化と敷地の拡張を行ってどうか。

答

戸川産業振興課長案内板は、県が道路施設としてつけてくれるのか、また、町がつけるのかを、県と話を詰めているので早急に対処したい。水洗便所については考えてみたい。拡張は河川管理との問題もあり難しいのではないかと思う。



年々利用が増えるせせらぎ公園

ければならないので、その提案も一つの検討課題としたい。

問 勝浦川の水質が年々悪化してきている。これはダムで土砂をせき止めるため、水質の浄化に大きな役割を果たしている砂の流出がないことが一つの要因と思う。下流で採取した砂を上流に戻す対策はとれないか。

答

坂井建設課長 県は定期的に水質調査を行っているようだが、水質浄化の対策は取られていない。河川の整備計画策定に流域住民の意見を反映させるため、勝浦流域懇談会が近く設立さ



正木ダムも水質悪化の要因に

問

公園の維持管理費を補うため、募金箱を設置して利用者にも協力を願ったかどうか。

答

戸川産業振興課長 行財政改革の中で、町の各施設の利用者負担についても考えていかな

グリーンツーリズム事業 地元商店に 与える影響は

問

町の活性化、農業振興の手法のよう

に言われる「よってネ市」の売り上げが伸びていることは喜ばしいが、その影響を受け地元商店の売り上げがダウンしているのも事実である。

答

町長 「よってネ市」の購買者は、町外が七十%、町内の人

は三十%の割合と聞いている。地元商店も、店によっては影響を受けているところもあると思う。

今、取り組んでいる交流事業は、できるだけ町外の人を呼び入れ、町の活性化につなげていくのが目的で、その波及効果で地元商店も有益になる方向を目指している。

今後、商工会とも相談しながら、できるだけみんなが繁栄するような形をとっていく必要があると思っている。

どなんなっとなで 県道の改良は？

▼ 山側を削り改良予定だが
用地交渉もまだ。



▲ 3戸の用地協力は得られたが、
進行は予算次第。



▼ 用地交渉に進展なし



▲ 用地交渉に進展なし



▲ 用地交渉はできているが予算
が少ないので何年かかるか。

至上勝町
勝浦川
久国
棚野
横瀬橋



▲ 横瀬橋関連で拡張の予定だったが
地元の協力を得られず白紙の状態。

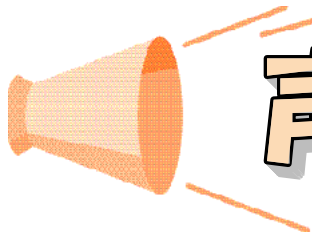


▲ 今後、県単道路改良で対応。



▲ 地元と調整して道路
改良設計を作成し、
河川課と協議中。

徳島土木事務所の話では、地価が値下がり傾向にあることから、用地交渉は幾分しやすくなっているが、予算面で厳しくなってくるので工事は計画通り進みにくいとのこと。



声のひろば

北の大地から

山川恭子 さん
(北海道出身 旧姓 角力山)



勝浦の水にもすっかり慣れました

- Q** 角力山さん、めずらしい旧姓ですが。
- A** すも山と読みます。昔、相撲の強い人がいたそうです。
- Q** 故郷はどんなところですか。
- A** 酪農地帯で牧歌的なところです。
- Q** 勝浦町に住むことになったきっかけは。
- A** 夫の妹と専門学校の寮で同室だったことが縁の始まりでしょうか？

- Q** 現在のご家族は。
- A** 夫、夫の両親、長男、長女、次男の七人家族です。
- Q** どんなお仕事ですか。
- A** 喜楽苑でホームヘルパーとして働いています。
- Q** 勝浦町の印象は。
- A** 加藤鉱山を抜けると、広がる景色が墨絵の世界のように映ったことを思い出します。
- Q** 勝浦に来て驚いたことは。
- A** 早口で話すのを耳にした時は、まるで外国語を聞いているようでしたが、今は阿波弁バツチリです。
- Q** 故郷が遠いので里帰りは大変だと思えますが。
- A** 飛行機で二時間、札幌から列車などで五時間かかります。嫁いで二十三年になります。八



- Q** 環境に対しての考え方は。
- A** 消費者として、エコショップやリサイクル設備を整えて欲しいと思います。
- Q** 将来、どんな町になればよいと思いますか。
- A** 鶴林寺や星の岩屋の町として知名度を高めるとともに、地場産業の活性化を願っています。
- Q** 好きな言葉は。
- A** 「人は人なか、木は木なか」木は木の中にあつてこそ生き育つ。人も同じだと思えます。

千葉・勝浦からこんにちは



11月5日 市長、市民ら150人が来町。みかんに舌つつみ。

編集後記

「一般質問の原稿は十月五日までにご利用します。」しかし、締切日までに提出されたのは約半数、何日か過ぎてやっと出そう。委員の血と汗の大奮闘がここから始まる。

第一回目の委員会は、表紙の写真、議案、委員会報告などレイアウトをどうするか。二回目から一般質問の原稿見直しに。みんな自信を持って提出しているが、解読難解な原稿も。

誤字、脱字はないか、数字は正確か、また質問者の都合の良い答弁に置き換わっていないかなど、議事録と照らし合わせたり、時には答弁者にも確認する。見直しが終わると次の作業にとりかかる夕方から始まり深夜に及ぶ時は、頭の中がポーツとしてくる。最終段階は印刷所での見直しでやつとできあがり。「今回の議会、たよりが一番」みんないつもそう思っているが…。

十一月十五日、皆さんにどう評価されるか。

(栄)